

# 釧路市の港におけるオオセグロカモメの営巣状況

Nesting Situation of Slaty-backed Gull in Kushiro Ports

矢萩 樹

釧路公立大学環境地理学研究室 北海道海鳥保全研究会

Tatsuki Yahagi

Kushiro Public University Hokkaido Seabirds Conservation Group

## はじめに

オオセグロカモメ *Larus schistisagus* は国内では北海道や東北北部で繁殖し、本来は海岸に面した草原、絶壁の岩棚や岩礁で集団営巣する(小林1983)。しかし、1984年に知床半島の文吉湾にある防波堤でオオセグロカモメの営巣が確認された(大泰司・中川1988)。1988年には羅臼町の建物の屋根でオオセグロカモメが営巣した(田沢1989)。釧路市では、1990年に釧路港の建物の屋根でオオセグロカモメの営巣が確認された(橋本1990)。以降、港湾施設でのオオセグロカモメによる防波堤や建物の屋根を利用した営巣は増加しているものと考えられている(長谷部2015)。

北海道各地で港湾施設の人工物を利用して営巣するオオセグロカモメが増加していることから、釧路市内の港湾施設においてもオオセグロカモメの営巣数の増加が予測される。しかし、釧路市内の港湾施設におけるオオセグロカモメの営巣記録は、前述した1990年の記録のみであり、この間一度も調査が行われておらず、その後の動向は不明である。一方で、大黒島やユルリ島、モユルリ島、知床半島など自然環境中心の営巣地ではオオセグロカモメの営巣数が減少している(環境省自然環境局生物多様性センター2015)。以上の背景から、オオセグロカモメの営巣状況を把握するためには、従来の自然環境における調査だけでなく、港湾施設におけるオオセグロカモメの営巣状況を調査する必要があると考えた。

そこで、2014年と2015年に釧路市内の3ヶ所の港において、オオセグロカモメの営巣状況と営巣数の動向を明らかにするため調査を行ったので報告する。

## 方法

調査は釧路港、千代の浦漁港、桂恋漁港を対象として実施した(図1, 図2, 図3)。2014年の調査では、6月6日と6月25日に釧路港、6月14日に千代の浦漁港、6月22日に桂恋漁港で行った。2015年の調査では、6月24日に釧路港、7月10日に千代の浦漁港、6月25日に桂恋漁港で行った。

調査地の環境については、釧路港には、漁業関係の建物や倉庫、防波堤などの人工物が存在するが、崖や岩などの自然環境は存在しない。千代の浦漁港

と桂恋漁港は釧路市の東部に位置し、漁業関係の建物や防波堤のほか、周辺には崖や岩などの自然環境が存在する。

調査方法は、いずれの調査地においても踏査により、オオセグロカモメの巣を探した。加えて、釧路港での調査では、高台の展望台から建物の屋根上にあるオオセグロカモメの巣を探した。千代の浦漁港および桂恋漁港では港湾施設周辺の自然環境においても巣を探した。巣を発見した場合、営巣に利用された環境についても記録した。

いずれの調査にも、倍率が10倍の双眼鏡と25-56倍の望遠鏡を利用した。



図1. 釧路港



図2. 千代の浦漁港



図3. 桂恋漁港



図4. 屋根で営巣するオオセグロカモメ

### 結果

調査の結果、2014年には3つの港から140巣、2015年には3つの港から183巣の営巣が確認された(表1, 表2)。利用された営巣環境は、2014年、2015年ともに建物の屋根、テトラポット、コンテナ、船着き場、海岸の孤立岩だった(図4, 図5, 図6, 図7, 図8)。環境別の営巣数については、2014年は建物の屋根で118巣、テトラポットで4巣、コンテナで1巣、船着き場で2巣、海岸の孤立岩で15巣だった。2015年は建物の屋根で148巣、テトラポットで10巣、コンテナで1巣、船着き場で1巣、海岸の孤立岩で23巣だった。

それぞれの港における調査結果の特徴としては、釧路港では兩年ともほかの港と比較し、圧倒的に営巣数が多かった。千代の浦漁港では、すべての営巣がテトラポットで確認された。桂恋漁港では、人工物を利用した営巣は確認されず、すべて漁港に隣接した孤立岩で営巣していた。

2014年と2015年の調査結果を比較すると、いずれの調査地でも営巣数の増加が見られた。



図5. テトラポットで営巣するオオセグロカモメ

表 1. 2014年におけるオオセグロカモメの営巣数

調査地	釧路港	千代の浦漁港	桂恋漁港	合計
営巣環境				
建物の屋根	118	0	0	118
テトラポット	0	4	0	4
コンテナ	1	0	0	1
船着き場	2	0	0	2
自然環境	-	0	15	15
合計	121	4	15	140

- : 該当なし

表 2. 2015年におけるオオセグロカモメの営巣数

調査地	釧路港	千代の浦漁港	桂恋漁港	合計
営巣環境				
建物の屋根	148	0	0	148
テトラポット	0	10	0	10
コンテナ	1	0	0	1
船着き場	1	0	0	1
自然環境	-	0	23	23
合計	150	10	23	183

- : 該当なし



図6. コンテナで営巣するオオセグロカモメ



図7. 船着き場で営巣するオオセグロカモメ



図8. 孤立岩で営巣するオオセグロカモメ

## 考察

今回の調査により、釧路市の港におけるオオセグロカモメの営巣数は1990年の19巣（橋本1990）から、大きく増加していることが明らかになった。また、2014年から2015年の2年間に於いても、43巣の営巣数の増加が確認された。

1990年に釧路港の建物でオオセグロカモメが営巣した際には、営巣の要因としてオオセグロカモメの生息数の増加が指摘されていた（橋本1990）。しかし、近年オオセグロカモメは北海道東部に於ける多くのコロニーで激減している（NPO法人エトピリカ基金2013）。このことから、オオセグロカモメによる港湾施設での営巣と営巣数の増加には別の要因が考えられる。

考えられる要因の第1に、エサ資源の問題があげられる。1997年以降の大黒島におけるオオセグロカモメの営巣数減少には、主な餌となるマイワシ *Sardinops melanostictus* の資源量の1990年代中盤以降の減少が影響していると指摘されている（環境省自然環境局生物多様性センター2013）。自然環境

において、エサの獲得が難しくなったことで、人間の水産活動にエサ資源を依存するようになり、港で営巣する個体が増加していることが考えられる。

要因の第2に、オジロワシ *Haliaeetus albicilla* による影響が考えられる。道東の海鳥繁殖地では、1990年代までは、オジロワシの姿を見ることはほとんどなかったが、2003年頃から開けた地上で営巣するオオセグロカモメやウミネコ *Larus crassirostris* への捕食が著しく目立ち始め、カモメ類の繁殖数が激減していることが指摘されている（千嶋2014）。一方で営巣環境が自然環境中心の厚岸小島では、300-400羽のオオセグロカモメの営巣が2012年に確認されている。この理由について、5月から11月にかけて昆布漁業者が常駐する昆布干し場とオオセグロカモメのコロニーが近いためにオジロワシが近づかないことが指摘されている（NPO法人エトピリカ基金2013）。このことから、オオセグロカモメの営巣が増加している港の防波堤や特に建物の屋根においても、オジロワシが人間を警戒し、接近しづらいことが考えられる。そのため、オオセグロカモメは港湾施設の人工物を営巣環境として利用することで、オジロワシによる捕食や攪乱を回避できている可能性がある。本調査により営巣数の増加が確認された桂恋での営巣は、自然環境での営巣であったが、営巣に利用された孤立岩は桂恋漁港に隣接しており、厚岸小島と同様にコロニーと漁業者の活動域が近いためにオジロワシが接近しづらいことが考えられる。以上の要因が港湾施設での営巣の誘因と推測され、自然営巣地におけるエサ資源の減少や従来よりも高まっていると考えられる捕食圧の状況が改善されなければ、今後も港湾施設での営巣数は増加することが予測される。

今回の調査により、釧路市においても港湾施設でのオオセグロカモメの営巣数が増加していることが明らかとなった。一方で、前述したように北海道東部の多くのコロニーでオオセグロカモメの営巣数が激減している。この現状を踏まえると、今後オオセグロカモメの営巣数を評価する際には、自然環境だけでなく、港湾施設での営巣数も把握する必要がある。

## 謝辞

本文の執筆にあたり有益なコメントを頂いた釧路市博物館貞國利夫氏に深く御礼申し上げます。

## 文献一覧

- 千嶋淳. 2014. 北海道の動物たち 人と野生の距離. 集英社.
- 長谷部真. 2015. 北海道北西部の港におけるオオセグロカモメの人工物上の巣数. 利尻研究 34:33-35. 利尻町立博物館.
- 橋本正雄. 1990. 屋上で繁殖したオオセグロカモメ.

- 釧路市博物館報325:10. 釧路市博物館.
- 環境省自然環境局生物多様性センター. 2013. 平成24年度モニタリングサイト1000海鳥調査報告書: 5-24. 環境省自然環境局生物多様性センター.
- 環境省自然環境局生物多様性センター. 2015. 重要生態系監視地域モニタリング推進事業(モニタリングサイト1000)海鳥調査第2期とりまとめ報告書: 32-34. 環境省自然環境局生物多様性センター.
- 小林桂助. 1983. 原色日本鳥類図鑑. 保育社.
- NPO法人エトピリカ基金(2013). 北海道東部における海鳥繁殖地の保全活動. 平成24年度タカラ・ハーモニストファンド活動助成報告書.
- 大泰司紀之・中川元. 1988. 知床の動物. 北海道大学図書刊行会.
- 田沢道広. 1989. トタン屋根で営巣したオオセグロカモメ. 知床半島博物館研究報告10: 51-54. 知床博物館.